さとやまべ

平成29年9月1日現在

世帯数	：	5,226 戸
男	：	5,769 人
女	：	6,149 人
計	：	11,918 人

里山辺地区　定着してきた「避難所運営委員会」と避難所訓練

ー9月2日の訓練実施の状況ー

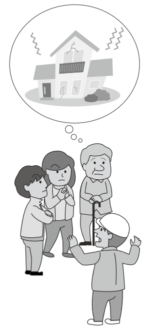
9月2日に大地震を想定した「避難所訓練」を山辺小学校体育館で実施した。

今回の目的と狙いは「避難者同士の共助と協働の精神に基づく避難所運営」。特に実践では「的確な情報伝達」・「秩序ある行動」・「被災者の救助」・「健康管理」等で、参加者は220名であった。又、訓練内容を解説し更にはアンケートを活用し理解度を高める努力を継続した。

倒壊した家屋からの負傷者救出訓練

山辺小学校を指定避難所として使う町会は、上金井・林町会である。しかし、今回は、「県ヶ丘高校・松本工業高校」が指定避難所となっている南小松・西小松町会も加わり避難所運営委員会本部を構成した。今年度は、実践を考慮した訓練を三つ実施した。その一つ目は、町会や地域にあって「自助共助」の先頭に立って災害に対処する大きな役割がある防災部に対する避難所訓練での立場をはっきりさせた事だ。二つ目は、小中学生20名の参加をいただき避難所体験をした事だ。これは、今後の避難所訓練の中で大きな手助けになることを期待している。三つ目は自助・共助を具体的に実践した事だ。つまり「大地震で倒壊した家屋からの負傷者救出訓練である」。この訓練では消防署の指導のもと、防災部員により梃子やジャッキを用いて被災者を救出し教護要援護者班（避難所運営委員会の活動班）に引き継ぎ、更に日赤奉仕団による応急処置までの「命のリレー」で負傷者を救護する訓練だ。避難所開設訓練となって3回に及ぶ訓練を実施する事で里山辺地区16町会全てが避難所の運営を理解できるまでになったと思う。今回の訓練にご尽力いただいた関係の皆様に厚く御礼申し上げます。

里山辺地区まちづくり協議会長　市原　富美敏



わが町紹介

●下金井町会②●

夏祭り「ふれあい広場　下金井」

下金井町会では公民館事業として、毎年お盆の8月14日に夏祭り「ふれあい広場下金井」を開催しています。

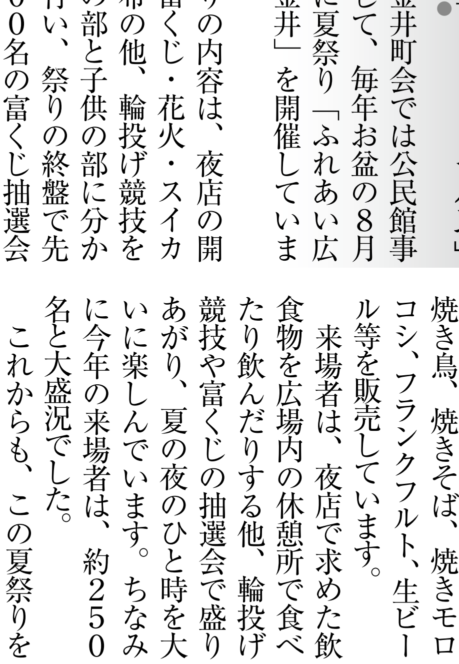
祭りの内容は、夜店の開設、富くじ・花火・スイカの配布の他、輪投げ競技を大人の部と子供の部に分かれて行い、祭りの終盤で先着200名の富くじ抽選会が行われます。

夜店は、子供向けのヨーヨー風船釣り、ポップコーン、焼き鳥、焼きそば、焼きモロコシ、フランクフルト、生ビール等を販売しています。

来場者は、夜店で求めた飲食物を広場内の休憩所で食べたり飲んだりする他、輪投げ競技や富くじの抽選会で盛りあがり、夏の夜のひと時を大いに楽しんでいます。ちなみに今年の来場者は、約250名と大盛況でした。

これからも、この夏祭りを町民の交流の場として継続していきたいと思います。

下金井公民館長　小林　賢一


大勢の人で賑わいを見せる

「助けて」を言える地域づくり勉強会

～自分の近い将来を考えましょう～

グループに分かれての話し合い

里山辺公民館講座として今年度3回の開催を予定している『「助けて」を言える地域づくり勉強会』の第1回が7月13日(木)に開催されました。

前段での講演では松本大学観光ホスピタリティ学科の尻無浜（しりなしはま）博幸（ひろゆき）教授より里山辺地区の高齢化率（現在27％）・要支援認定者率は松本市の平均値に近いが、今後段階的に増えていくのが必至で、地域・専門機関・公的機関が連携し地縁による生活基盤整備が大切と話がありました。

後段では、世帯類型や町会規模が近いグループで話し合いを行い、日常・必要・非常時で手助けできている項目・できていない項目を確かめ合いました。次回はここで得られたデータを基に具体的な支え合いの仕組みを考えてゆきます。

公民館主事　石川　和也

認知症介護支援を学ぼう

8月25日、119名の参加をいただき、里山辺地区「福祉を語るつどい」が開催されました。

講師は松本市四賀にある「峠茶屋訪問看護ステーション」所長の江森けさ子先生で「認知症の対応・老いを生きる応援歌・できないところを支える介護」と題し講演いただきました。

講演では、認知症は老いの中で脳の退化により誰もがなること、治療薬がないこと、夫婦で片方が認知症になったとき困ってしまうことなど、現場でなくてはお聞きできないお話がありました。今のうちから認知症チェックを受け、デイサービスを見学し、介護方法を学び、施設に入所する経済的計画も考えておいてほしいとの知識もいただきました。

例えば、80歳で骨折して入院生活を送り、リハビリ病棟へ、3ヶ月で病院を出るとなると行く先なし。認知症が進んで家に帰っても、介護する人が無く峠茶屋へ入所。こんなケースが増える中、峠茶屋の方針は鍵なしで出入自由、おむつなし介護、寝たきり生活をさせない介護だそうです。

その後、認知症の「松さん」「竹さん」「梅さん」の人形を使ってそれぞれの経歴や性格、癖を上手に引き出してやる気を起こさせる話を四賀の方言で楽しく公演していただきました。

この講演会を聞いて困ったときはまず東部包括支援センター（電話／36-3703）に相談することをお奨めします。

里山辺地区社会福祉協議会　副会長　赤羽　哲夫

人形を使っての認知症の話

人権について学ぶ

里山辺人権啓発推進委員会では、六月三十日飯田市に出向きJR飯田線の前身「三信鉄道」設置の為の測量や建設指揮をしたアイヌ人「川村カ子ト氏」の足跡を訪ね、飯田カネト合唱団代表の渡邉美津子さんから講話をいただいた。

川村さんは、旭川市のアイヌの酋長の息子として生まれ、旧鉄道省の測量技手試験に合格、大正十五年には測量技師の力量を買われ、荒々しい地形、崩れ易い中央構造線に沿った岩盤の天竜峡と三河河合間を命懸けで測量や現場監督として十二年の歳月を費やし、鉄道設置という大事業を成し遂げました。この間、アイヌ民族が故の偏見・反感・差別に遭い、殺されかけた事も有ったとの事でした。

この講話を拝聴し、人は誰しも出身・民族・学歴・地位などを理由に偏見や優性主義に陥り易いものと感じ改めて自らを戒める一日でした。

副委員長　輿　熹

笑顔あふれた夏祭り

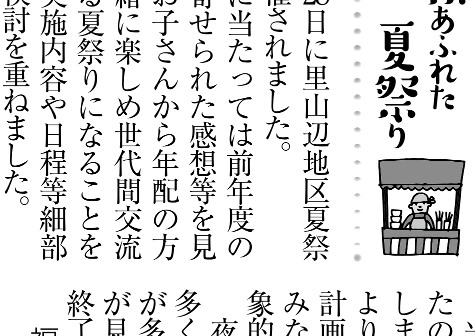
7月28日に里山辺地区夏祭りが開催されました。

実施に当たっては前年度の反省や寄せられた感想等を見返し、お子さんから年配の方まで一緒に楽しめ世代間交流が出来る夏祭りになることを願い、実施内容や日程等細部に渡り検討を重ねました。

当日は午前中雨が降っていたのでミニSLの運行を中止しました。幸いなことに昼頃より雨が上がり、他の行事は計画に従い、和気藹々と楽しみながら準備を進める姿が印象的でした。

夜店を仕切る人は年配者が多く、来場者は若い親子連れが多く、にこやかなやりとりが見られ温かな雰囲気の中で終了出来ました。

福祉ひろば事業推進協議会　会長　白木　久雄



みんなで長のり巻き作りに挑戦

里トピックス

◇第13回里山辺地区マレットゴルフ大会

8月18日（金）中山霊園マレットゴルフ場で開催予定の同大会は前日からの雨で中止となりました。

◇学校サポート事業

9月3日（日）、山辺小学校の草刈りを実施しました。里山辺・入山辺両地区の町内公民館長を中心に総勢60名で校庭及び上庭の草を刈りました。昨年度に引き続き秋のPTA作業と同時に行いました。「地域の子どもは地域で育てる」をテーマに、学校環境の整備の取り組みとして今後も継続していきます。

◇夏休み親子体験講座「薄川で魚つかみ体験」

8月1日（火）、12家族子ども18人で、川遊びの楽しさと生きた魚を素手で捕まえる体験を「食育」の一環として実施しました。捕まえた魚を家に持ち帰り大切に食べてもらうようお願いしました。「新鮮で美味しかった」という声が聞かれました。

◇第64回里山辺地区野排球大会

8月27日（日）に行われました。今大会は昨年・一昨年と雨で流れ、待ちに待った軟式野球が透き通った晴天の中実施されました。大会の結果は次のとおりです。

【軟式野球】

	Aブロック	Bブロック
優勝	新井	薄町
準優勝	荒町	林

【ソフト排球】

	Aブロック	Bブロック
優勝	湯の原	新井
準優勝	荒町	西荒町